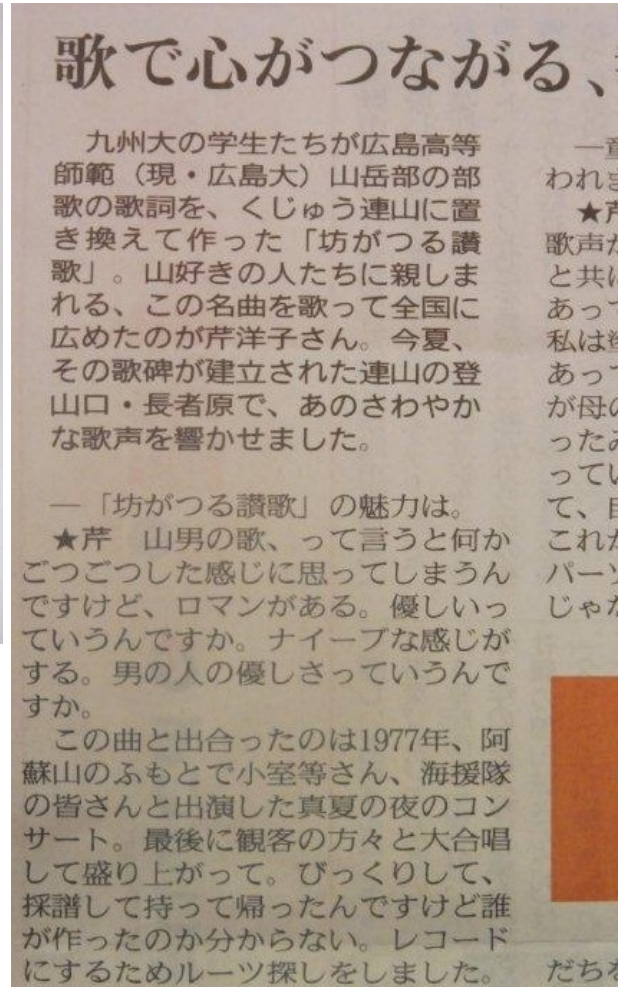


第一歌「山男」 坊がつるの風に乗れ その後

先日、西日本新聞 8月30日(日)分の 切り抜き記事が我が家に届きました。送り主は福岡市に住むHUACNo.118の後藤栄一郎君。手紙には、次の内容が書かれていました。

坊がつる讃歌の歌碑建立の記事を送ります。一昨年(2014)の6月、昭和36年度入学の同期生9名、卒業50周年を記念して九州の久住山麓のホテルに集結。翌日、ミヤマキリシマに囲まれた現地 坊がつるで見知らぬ登山者たちを前にして部歌「山男」を合唱したのが、以心伝心、碑の建立につながった。・・と思うことにしています。

記事の内容は、勿論「坊がつる讃歌」の歌碑建立と芹洋子さんの写真。



「坊がつる讃歌」の元歌は、昔から俺たちが大切に唄ってきている山岳部の部歌「山男」であることは紛れもない事実。

だから、ミヤマキリシマが咲き誇る時期、「坊がつる」まで出かけて行って、訪れている登山者の皆さんたちの前で、「坊がつる讃歌」のルーツ「山男」の正調を紹介し合唱すれば、初めてのサプライズになるだろうし、どんな反応があるのだろうか、少しばかりの期待といたずら心も手伝って実行したのです。

結果は余韻が残るほどの大成功でした。最も影響を受けていたのは、当の私たち自身だったのかもしれない。後期高齢者の仲間入りが眼の前なのに、それ以来、次はどこを計画しようかと言った話が飛び交うようになっています。

なお、その時の紀行文は、「第一歌『山男』坊がつの風に乗れ」というタイトルで14年5月7日に投稿しています。

No.119 佐々木 稔

歌碑除幕式

(インターネットより、鹿島クラブ事務局)

